

平成30年度 事業報告書

I. 事業の概要

公益法人として第7期となる平成30年度は、

1. 奨学金事業として

(1) 県内在住15名の高校奨学生及び大学院奨学生3名に対し、奨学金を給付した。

(2) 奨学生同志の交流を深めるため懇親会を2回開催した。

2. 奈良県立橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

II. 事業活動

1. 奨学金事業

(1) 本年度は、新採用の6名を含めて計15名の高等学校奨学生に対し月額3万円、3名の大学院奨学生に対し月額10万円の奨学金を給付した。

内訳は、下記の表のとおりである。

(2) 懇親会

《第1回》

平成30年8月18日(土)開催 在学奨学生12名 ・ 卒業生7名 / 計19名参加

・午前中は、参加者全員での自己紹介
・午後からの話し合いのテーマとしては、候補の中から「上下関係は厳しくするのが良いのか」を多数決で選択。上下関係において、厳しくすることが「パワハラ」となりかねず、それが現代の社会問題の一つとなっている。学校においては、同じ生徒同士でありながら、学級や学校内の行事、また、部活動等で各々の立場の違いから生じる葛藤があり悩みを抱え込んでしまう場合もあるので、体験を通して感じたことや見解を参加者全員が発言した。リーダーになった場合の仲間とのやりとりのむつかしさ、あるいは気付いたこと、仲間の一員として言いたいこと等、目的に向かってつながるためには、どうすればよいのか……。いろいろな角度から話し合うことができ、内容のある数時間となった。

《第2回》

平成31年3月23日(土)開催 在学奨学生15名 ・ 卒業生8名 / 計23名参加

- ・ 午前中は、恒例の参加者全員での自己紹介
- ・ 午後からの話し合いについては、19個の候補の中から「あなたが大切にしていること（人生の教訓でも、生活リズムに欠かせない物でもなんでも）」を多数決で選択。自分が日頃大切にしていることを参加者全員が発言。他人への思い、家族との時間（夕食も含む）、睡眠、健康、日常の暮らし、人間としてできること、素直さ・・・等々。一人一人が自分に真っ直ぐに向かい合って選んできた言葉を聴かせてもらったこの時間は、何より貴重であったように思われる。
- ・ 「スマホの学校への持ち込み」を大阪市の教育委員会が認めたこともあり、二つ目のテーマとして選び、話し合った。賛否両論があったが、災害時における連絡手段として有用であることは、全員が認めるところであった。

2. 奈良県橿原考古学研究所へ学術研究の為の書籍を寄贈した。

寄贈図書については、同研究所から購入書籍報告書を受け取っている。